

## V326a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用準備の現状

林克洋 (ISAS/JAXA), 田代信, 寺田幸功 (埼大, ISAS/JAXA), 高橋弘充 (広大), 信川正順 (奈良教育大), 水野恒史 (広大), 宇野伸一郎 (日本福祉大), 久保田あや (芝浦工大), 中澤知洋 (名大), 渡辺伸, 飯塚亮, 佐藤理江, 米山友景 (ISAS/JAXA), Chris Baluta (NASA/GSFC), 海老沢研 (ISAS/JAXA), 江口智士 (福岡大), 深澤泰司 (広大), 加藤颯 (埼大), 勝田哲 (埼大), 北口貴雄 (理研), 小高裕和 (東大), 大野雅功 (広大), 太田直美 (奈良女大), 阪間美南 (埼大), 佐藤諒平 (埼大), 志達めぐみ (愛大), 菅原泰晴 (ISAS/JAXA), 丹波翼 (東大), 谷本敦 (東大), 寺島雄一 (愛大), 坪井陽子 (中央大), 内田和海 (ISAS/JAXA), 内田悠介 (広大), 内山秀樹 (静大), 山内茂雄 (奈良女大)

2022年度打ち上げ予定のX線分光撮像衛星XRISMプロジェクトでは、搭載検出器の開発チームや衛星運用チームとは独立に、打ち上げ前の早い段階から科学運用チームを立ち上げ、軌道上でのスムーズな科学運用の実施と、科学観測のアウトプットを最大限に引き出すための周到な準備を行っている。現在の主な活動は、観測提案システムの構築、観測スケジューリングなどの観測計画プロセスの樹立、観測情報などを収集するデータベースの構築、衛星テレメトリーの高次データ処理とその即時解析やアーカイブのためのシステム構築、軌道上較正観測のソフトウェア開発や較正観測計画の補助、ユーザーサポート・ヘルプデスク活動計画の樹立などである。「ひとみ」の観測データや、XRISM搭載検出器の機能試験および衛星のシステム試験で得られたテレメトリデータを使って、地上システム単体での動作試験や、システム間のインターフェイス試験を実施している。これらの活動は、搭載検出器の開発チーム、NASA/GSFCやESACの地上ソフトウェアチームやユーザーサポートメンバーと協力しながら進めている。本講演では、これらXRISM衛星の科学運用準備の現状と今後について報告する。